

2026.8
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみ やく 富 薬

8 号

第48巻
No.445



ハッカ *Mentha arvensis* L. var. *piperascens* Malinv.

(シソ科 *Labiatae*)

生 薬 ハッカ（薄荷） 開花期に地上部を採取し、風通しの良い場所で陰干しする。

成 分 精 油： *l*-menthol, methyl acetate, *l*-menthone, cineole, β -caryophyllene, *l*-limonene, iso-menthone, germacrene-D, piperitone, pulegone等。

効 能 芳香性健胃、かぜの熱、頭痛、めまい、消化不良、歯痛などにティーとして服用。疲労回復、腰痛、神経痛に浴湯料として。加味逍遙散、防風通聖散などの漢方処方に配合される。

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



『第十八改正日本薬局方』(2021)ではハッカ *Mentha arvensis* Linné var. *piperascens* Malinvaudの地上部であると定められています。

やや湿った地に自生または栽培される多年生草本で、地下茎が長く伸びて繁茂します。全草に強い芳香があり、茎は直立し高さ20–80cm、疎に分枝し、方形で軟毛を付けます。葉は対生し、長だ円形～卵形で長さ2–5cm、葉先は尖り、鋸歯縁、小さな油斑があり、両面に軟毛があります。8–10月ごろに茎上部の葉腋に短い花梗をだし、淡紫色～微紅色～白色の小形の唇形花が球状に多数集まります。分果は楕円形でやや扁平です。

中国では古くから揚子江周辺で栽培され、後に朝鮮半島を経て日本(本州、四国、九州)に伝わり、また満州、樺太、シベリアへ伝わったと考えられています。日本への渡来時期ははっきりしませんが、平安初期の古書『大同類聚方』(808)に「免久差」の名が現れ、断定はできませんが、ハッカの古名「目草」ではないかと考えられています。『物類称呼』(1775)に「はつか(めくさ)西国にてめはりぐさという」とあるように「メクサ」、「メハリグサ」は目の疲れや眠気覚ましに目蓋に貼ったことから付けられたようです。平安前期(782–900)には渡来していたのではと考えます。

ハッカ葉には精油成分を2–4%と高い濃度で含まれ、その70–90%は*l*-mentholであるため刺激臭が強く、平安時代にはあまり用いられていなかったようです。しかし、室町時代後期になって田代三喜や曲直瀬道三が金元医学、特に李朱医学を日本に持ち帰り、後世派なる一派を形成したことから全国に広がりました。後世派処方では宋代の『和剂局方』(1107–1110)や明代の『万病回春』(1587)を出典とする処方が多く、響声破笛丸、柴胡清肝湯、加味逍遙散、清上防風湯、川芎茶調散など「薄荷」が配合される処方があることからハッカの需要が増えて行きました。江戸前期の『農業全書』(1696)には「薄荷、是も葉に多く用ゆる物なり。作るべし。……肥地に一度うえおけば年々自ら生ゆる物なり。たねを取りをき苗にしてもうゆべし。畦作りしうゆる事業にかわる事なし。刈る時分は小むぎかころ、下葉色付くを日和を見て刈り取り、うすくあみて一日ほし、其後日かげにつりてかけ干しにして薬屋に売るべし」と、作付けを奨励しています。

江戸中期になると吉益東洞(1702–1773)らによる『傷寒論』(3世紀頃)、『金匱要略』(3世紀頃)への回帰を唱えた古方派が漢方の主流になり、後世派の薄荷を使う処方はあまり使われなくなりました。しかし、江戸後期から明治にかけて水蒸気蒸留技術が発達すると、含有量の高い日本産ハッカからハッカ油やハッカ脳(*l*-menthol)を採るため、多くの栽培が始まります。文化14年(1817)には岡山、ついで広島、山形、新潟に、明治24年(1892)には北海道へと広がって行きました。その間在来のハッカからの選抜種やセイヨウハッカとの交配種など多くの品種が開発され、世界の*l*-menthol生産量の90%を生産し輸出していました。『初版日本薬局方』(1886)にも収載され「薄荷 *Mentha arvensis* Linn. var. *piperascens* Holmes.」と記されています。現在は合成mentholが主流になり、栽培は廃れましたが、昭和30年(1955)代に入って、薬の副作用事件が相次ぎ、副作用が比較的少ないと言われた漢方薬が見直されるようになり、昭和50年(1975)に医療用製剤としての『一般用漢方処方の手引き』が示され、先に述べた漢方処方など含めた210処方が掲載されたことにより、ハッカの需要も再び増えています。

(村上守一 記)